

湘南医療大学
ティーチング・ポートフォリオ

湘南医療大学
保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻
坂上 昇
2026 年 4 月 20 日

1. 教育の責任

- 授業科目:理学療法教養基礎(1年、必修)、見学実習(理学療法)(1年、必修)、検査測定学概論(1年、必修)、検査測定学演習(2年、必修)、運動器系検査測定学(2年、必修)、発達系理学療法学(3年、必修)、理学療法研究法演習(3年、必修)、評価学実習(3年、必修)、地域リハビリテーション実習(理学療法)(3年、必修)、総合臨床実習Ⅰ(4年、必修)、総合臨床実習Ⅱ(4年、必修)、理学療法卒業研究(4年、必修)、理学療法特論Ⅱ(4年、必修)
- 上記の科目を担当することで、理学療法の基礎知識や基礎技術を教授し、理学療法を理解してもらう。
- 学内委員会:専攻長として多くの学内委員会の委員を務め、円滑な委員会活動を行っている。
- 専攻内分掌:専攻長として専攻内に設置している委員会の責任者を務め、専攻内の運営が円滑になるように努めている。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

私が最も大切にしている教育の理念は「理学療法士として患者、職場、社会から信頼される人材の育成」である。私が担当する科目は、理学療法士養成課程において中核となる基本的な知識・技術を教授する科目であり、将来の臨床業務において直接的に役立つ内容ばかりである。その科目を教授する過程において、「理学療法士として基本的な知識・技術」を修得させること、「それを基にした論理的な思考能力」を身に付けさせることを重視している。これらの能力は、大学の授業において全てが備わるものではなく、その後の「自己研鑽」も求められ、この点についても重視している。社会人として、理学療法士としての長い人生が実り豊かなものとなって欲しい、これらの能力を大学生活において身に付けて、「信頼される理学療法士」となって欲しいと考えている。

2) 理念をもつに至った背景

私が理学療法士養成施設の教員となって30年が経過した。この間、理学療法士に求められる役割や知識等が変化し、大学教育においても教授内容が見直されたり、臨床実習の在り方等も見直されたりした。また、学校養成施設の増加に伴い、学生の質の低下についても取り沙汰されるようになってきた。このように、教育をめぐる背景は大きく変化しているものの、社会から求められる理学療法士像は大きくは変わっていない、あるいはさらに高い能力を求められるようになってきたと思われる。従って、教授すべき内容はしっかりと教授し、信頼を得られる理学療法士を社会に輩出することは、理学療法士養成施設教員の責務であると考えている。

3. 教育の方法・戦略

学生は、大学に入学し、4 年という期間で理学療法に関する膨大な量の知識・技術を学ばなければならない。理学療法の教育課程は、教養科目は別として、基礎医学科目、理学療法基礎科目、理学療法専門科目が積み上げ式に配置され、繋がりを持って学修が進む。その過程において、まず新しい知識を記憶することが必要不可欠となる。この知識の記憶なしに思考することは成立しないと考える。その記憶(知識)を元に、それを活用する能力を身に付けることはさらに重要であると考え、担当する科目を通じて教育を行っている。

以下に、担当する主要な科目の授業概要について記述する。

【検査測定学演習】

- 主に機能・構造障害を評価するために必要な骨・関節、筋、腱の触診法と活動制限を捉えるための検査法を演習形式で教授する。
- 既に学修した解剖学・生理学・運動学等の知識が求められるため、それらの知識の確認と定着のために予習課題を課している。
- 予習課題の内容を含めた授業を展開し、科目間の繋がりを意識させ、知識の定着を図っている。

【運動器系検査測定学】

- 主に機能・構造障害を評価するために必要な関節可動域測定と徒手筋力検査法を演習形式で教授する。
- 既に学修した解剖学・運動学等の知識が求められるため、それらの知識の確認と定着のために予習課題を課している。
- 予習課題の内容を含めた授業を展開し、科目間の繋がりを意識させ、知識の定着を図っている。
- 技術の修得が必要であり、授業内での演習だけに留まらないように、復習課題を課し、技術の定着を図っている。

【発達系理学療法学】

- 運動発達障害を呈する小児疾患について講義を主体に教授している。
- 新しく覚えなければならない知識の多い科目であり、そのことを意識させるような注意喚起を行っている。
- 既に学修してきた科目と関連する知識の確認と定着のために、授業内において適宜質問するようにしている。

上記の科目は、国家試験には必ず出題される分野であり、授業内においてそのことを意識させる発言をしている。

4. 学習成果

【授業評価】

- ・大学が前期と後期に実施する授業評価では、平均点がほとんどの科目において 4.0 以上であり、学生の評価は比較的良好である(直近 2 年)。
- ・評価の下位項目の中で、「理解」に関する得点が少し低値となっている科目があり、学生が少しでも理解しやすい授業展開に心掛けなければならないと考える。

【国家試験】

- ・理学療法士国家試験の合格率は、2018 年度が 91.7%(全国平均 85.8%)、2019 年度が 91.2%(全国平均 86.4%)、2020 年度が 94.4%(全国平均 79.0%)、2021 年度が 100%(全国平均 79.6%)、2022 年度が 100%(全国平均 87.4%)、2023 年度が 100%(全国平均 89.3%)、2024 年度が 97.7%(全国平均 89.6%)、2025 年度が 100%(全国平均 89.7%)、いずれの年度も全国平均を上回っており、国家資格の取得に関しては良好である。

【就職】

- ・国家試験に合格した学生は全員が就職しており、就職率は 100%である。

5. 改善のための努力

- 担当科目別に、毎授業後に授業振り返りノートをつけ、授業内容を振り返り、次年度の授業の組み立てに役立てている。
- 実技の授業においては、3～4 人の教員を配し、目の行き届く授業を行っている。
- 教員による実技のデモンストレーションをビデオカメラで撮影して液晶テレビ 2 台に映写し、少しでも手元がみえやすいようにしている。
- 国家試験問題を分析し、授業内容に反映するように取り組んである。

6. 今後の目標

【短期目標】

私の教育対象となっている学生は、理学療法士国家試験に合格し、卒業するという明確な目標が設定されている。その目標達成のためには知識の習得が必要不可欠であり、その点に関しての教授には妥協を許さずに今後も取り組んで行きたいと考えている。しかし、座学中心の講義科目に関しては、講義内容が知識の伝達に偏りすぎる傾向があるので、次年度はもう少し双方向の授業展開ができるように取り組みたいと考えている。

【長期目標】

理学療法士養成施設指定規則の改正が数年後には行われると思われるので、大学教育において求められる教育水準が変化すると考えられる。その変化に対応することは教員として必須であるので、自己研鑽を続けていきたいと考えている。

【添付資料】

・無し